

## 今年の独立展額田さんの作品「ドンガの旗」紹介

2025-10-18 野口幹夫

今年の独立展の額田さんの作品を見てきました。「ドンガの旗」という作品でした。



ドンガの旗  
会員 額田晃作

200号

おなじみのエチオピア民族の力強い作品です。長尺の棒による競技の風景で、左側の集団には抜きん出た勝利者を中心としたチーム、中央から右に試合がえがかれ 左上は引き上げる観衆のようですが、おもしろいのは右の踊っているような謎の人物の存在です。真ん中の3種の旗が題名のドンガの旗だろうとは思いましたが、全体として帰って調べなければこの絵を楽しめないと思いました。

かえって調べてみれば、なんと9年前2016年の独立展に同じ名前の作品を出されていたの

です。その時の報告が高津の 5 期 HP 交遊の広場 2016 にのっています。

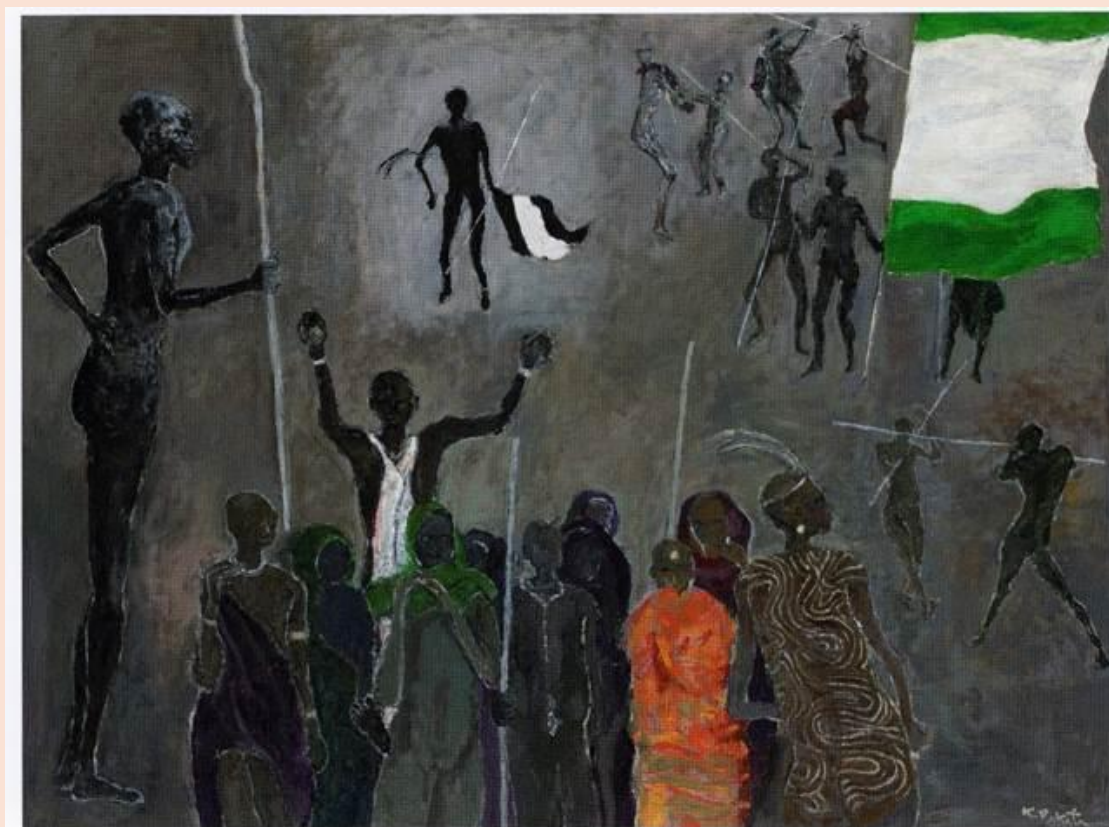
そこには当時調べたエチオピアの民俗の営みを記していますのでそれを再録しておきます。

## 額田さんの今年の大作 ドンガの旗

2016-10-20 野口幹夫

10月19日伊藤公博さんと二人で六本木の国立新美術館の独立展を訪れました。

毎年10月に来る乃木坂駅のエレベーターに乗った時から今年はどんな人たちに会えるのかなとの期待に胸が騒ぎました。



ドンガの旗  
会員 額田晃作  
200号

会場に入った時すぐあそこにあると斜めながらその絵を見つけました。額田さんは独立展の



重鎮ですから入り口に近い定席にあるのです。

その人はわっと手を挙げて歓迎してくれたようでした。今年の絵は例年になく色彩が豊かで美しいのです。まず見てください。

よく見るとその歓迎をしてくれている人の足が宙に浮いているのです。そうか、この人は皆に担がれているのだと分かりました。左のものすごく背の高い精悍な姿の青年が棒を持っています。そして右一带に棒術の一騎打ちが描かれています。

額田さんのつけた題名のドンガ (Donga) は、ウィキペディアによれば、「エチオピア南西部に住むスルマ人によって行われる棒術で、牛の放牧を生業として生活する半遊牧民族のスルマ人に伝わる戦士を自認するスルマ人にとってドンガは一大イベントである。男性は



ドンガの試合に勝利する事で自らの強さを認められ、妻をめとる事が出来るなど社会的な地位を向上させる事ができる。ドンガの競技は食物の豊富な雨季の後に行われ、男たちは 20～30 人からなる 2 つの陣営に分かれて数組ずつが試合を行う。相手がギブアップするか、地面に倒すと勝利となる過酷なものであるため流血戦となる事も多い。」とありました。

勝者らしい青年が担ぎあげられている手前の集団はみな誇らしげな様子です。右上の緑と白の旗はこの集団のシンボルでしょうか。

この野性的な闘いを額田さんの画筆は心暖かく優美なものにしました。

以上が 2016 年の作品の見学報告です。今回は額田さんのこの 10 年近くの間と同じ題材を比べるという貴重な経験をさせていただきました。

この 2 作を比べての印象、まず全体として明るくなりました。それと今回の作品にある踊っているような謎の人物の登場です。この人物のおかげで全体がユーモラスな雰囲気になっています。流血を呼ぶような過酷な棒術競技を、楽しいユーモラスなものに成長させたのではないのでしょうか。長年エチオピアの民衆と付き合ってこられた額田さんの願いを込めた 1 作なのかもしれません。

以上